

## 移住の不安を払拭。地域外からやって来た人たちが 住みながら生活をつくる「ホシノマチ団地」

長野県佐久市でユニークな団地プロジェクトが進行している。6年以上新規入居者のいなかった市営住宅を改修し、団地の集会所をコワーキングスペースとして整備。「ホシノマチ団地」は、長野県佐久市の地方創生の取り組みである生涯活躍のまち事業として推進されているもので、佐久圏域外からの移住者のみが暮らせる団地となっている。

その特徴は、移住の不安を徹底的に解消した団地であること。移住の3大不安要素である、住まい、仕事、コミュニティをすべて解決した住宅となっており、賃貸でありながら十分な広さのある間取りをもち、団地スタッフやプログラミングなど、新たな職業の習得もサポート。入居して終わりではなく、入居者がプロボノメンバーたちと共に生活をつくりあげていくというコンセプトに共感した人たちが集まり、コミュニティも醸成されていく。1、2階は高齢者に対応したバリアフリー住宅となっており、多様な年代の入居者が集まるのも特徴。現在は8室中7室の入居が決定しているという。さらに11月からは3、4階の8戸がセルフリノベーション可能な住宅として募集開始。こちらは20代～30代の若い世代がターゲットとなる。入居者がここでどんな暮らしを展開していくかは、今後公式ウェブサイトで発信していく予定だ。

企画、運営している株式会社みんなのまちづくり代表の伊藤洋平さんは「入居者の入らなくなった市営住宅に20代～30代の若い移住者が入るといいう取り組みなので、他の地域でも関心があるところがあればぜひ取り組みたい」と語っている。

移住の不安を払拭してくれる新しい住まいの形。今後の「ホシノマチ団地」に注目したい。



お問い合わせ  
ホシノマチ団地  
🌐 <https://hoshinomachi.jp/>